

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		じぶんみらいココイロ		公表日		2025 年 5月 12日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		活動室を広く使えるよう、折りたたみの机を使用する等しています。また、グループを分け会議室なども活用しています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		・児童の特性に合わせてプログラム等を調整しています。 ・職員の欠員があった場合は、プログラムの内容を適切に無理のない内容にしています。	法令基準を上回る職員の配置ですが、利用児童の特性や活動内容によっては、余裕がない場合もあります。その時は左記の調整を行っています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		靴箱、ロッカー以外の棚は扉があります。その為、目に映るものが少ないため、活動しやすい構造になっていると思います。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日、子ども達と一緒に清掃活動を行っています。机や椅子などはおやつや食事の度に消毒を行っています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		相談室や会議室を使用し、クールダウンや個別学習に必要な環境を整えています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		支援に繋がる業務改善については、日々のミーティング等で意見を出し合い改善に取り組んでいます。	事務的な業務に関しても、各職員が抱えている業務を出し、改善できるよう取組始めました。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者の声を真摯に受け止め、職員間で周知し、改善に努めています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		日頃から、職員が意見をしやすい環境を心掛けている。日頃から思ったことを発言してもらうことで、全職員で考え、より良い業務が出来るようにしています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5		第三者評価は行ってないが、定期的に第三者委員に運営を見てもらってアドバイスをもらっています。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5			法人から与えられる研修だけでなく、専門性が更に深まる研修や、勤務年数によって異なる研修を増やしていきたいと考えています。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		全体的な支援内容は契約時に伝え、毎月のプログラムは作成後、保護者へ配布しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		アセスメントの後に、サービス等利用計画や保護者、本人のニーズを分析し、個別支援計画を作成しています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		ケース担当者が個別支援計画を立て、職員全員で発表後、職員の意見を反映し個別支援計画を作成しています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		個別支援計画を作成後は発表するので、職員間で共有でき、計画に沿った支援を職員が統一して出来ています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		日々の振り返りの中で、職員全員が各児童の適応行動を把握できるようにしている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		本人支援はもちろん、本人を取り巻く環境と出来るだけ連携を持ち、家族支援や進学、就労等、本人や保護者の意向に沿った支援を心掛けています。	不登校等の支援が必要な場合、学校含めた地域支援との連携を強化する必要があると思っています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		立案は一人で行っているが、最終確認を全員で行い意見を聞いて修正を行っています。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		ミーティングでプログラムの振り返りを行い、反省点を改善しながら、新しいプログラムにも挑戦しています。	楽しく学習に取り組めるプログラムの立案を増やしていく必要があると考えます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		その児童の特性に合わせて、集団支援、個別支援を組み合わせています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		支援終了後にミーティングを持つことは難しいが、翌日のミーティングや緊急性のあるものに関しては、直ぐに話し合いを持っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		特に気になる行動については、記録を残し、ミーティングで職員全員に周知を図っています。	夏休み等、朝から児童支援がある場合には、個別に職員に課題を伝えていますが、難しい場合があります。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		コミュニケーションが苦手な児童に関しては、本人が自己決定しやすいようにイラスト等を用いて、表示方法を工夫しています。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		送迎時の申し送りや、それが難しい場合は、必要な時に電話連絡、会議を持ち、学校と情報共有を心がけています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		新規で利用する児童に関しては、出来る範囲で、前に利用していた事業所や学校との情報共有を行っています。	主に中学生～高校生を対象とした事業所のため、保育所や児童発達支援事業所との情報共有はありませんでした。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか。	5			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		児童発達支援センターは同法人のため、連携を図り必要な時は助言等を受ける体制が整っています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	児童館の夏休みのイベント（お化け屋敷）や全国ミニバレー大会に、参画し地域社会参加を促進しました。	地域の児童と直接かかわることは難しいが、イベントなどに積極的に参加し、関われる切っ掛けを見つけ出す必要があります。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	3		前年度は職員の体調不良等により参加が難しかったですが、毎年積極的に参加しています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		日頃から保護者とのコミュニケーションを大切にし、気になることがあれば、すぐに送迎時や電話で伝えるよう心掛けています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		毎年親子会を開催し、就労・卒業後の自立に向けた講話を行い、同時に座談会も開くことで、各保護者の支援向上を図っています。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に説明を行っています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		各会議や面談、送迎時の会話等から保護者の意向、またこども本人の気持ちを確認し支援に繋げています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		保護者から要望があった場合はもちろん、事業所から必要と感じた場合も、出来るだけ早急に面談等を設け、課題解決を図っています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5		毎年、「親子会」を開催し、就労に向けての講話や児童のレク大会、親子BBQを開催。座談会も行うことで、保護者交流も設ける事が出来た。今年度も6月に予定しています。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		日頃の情報共有を大切にすることで、苦情なども出来るだけ早く対応できるよう心がけています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		保護者がすぐに相談しやすいよう、日頃から情報共有を心がけています。また、子供たちに関しては、イラストカードや五十音表等を用い、本人の気持ちを表出できるよう気を付けております。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		事業所単独では、地域住民を招待するイベントが難しいです。以前は法人内で祭りを行っていましたが、コロナ禍から実施できずにいます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		今年度改めた内容や、訓練報告も保護者へ広報等を利用し周知していきます。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		事業所内の消防訓練だけでなく、市町村、沖縄県主催の防災訓練にも積極的に参加しています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		てんかん発作などが生じた場合の対応方法も保護者と情報共有しています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。				アレルギーの児童がいませんでした。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			前年度の反省として、救命研修を行うことが難しかったため、今年度は、救命講習も積極的に参加し、より安心して活動に取り組めるようにしていきます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		研修・訓練等は広報にて報告しています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			これまで、実際にケガがあった場合のみ記録していましたが、今年度から小さなことも出来るだけ記録に残し、事故防止に取り組んでいきます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5			必要だと思われる児童がいた場合に、保護者に説明し連携して取り組んでいきます。	